

研究ノート

国際観光が観光者の対ホスト国イメージに与える影響 ——世界遺産候補の構成資産と体験観光を事例として——

滝 知 則
(人間社会学部 国際観光学科)

International Tourism and Its Influence on Tourists' Impression of Host Country: the case of a tour to visit sites of World Heritage candidate and experience-based tour in local communities of Nagasaki, Japan

Tomonori TAKI
(Department of International Tourism,
Faculty of Human and Social Studies)

Summary

This study considers whether tourist's experience can affect her/his image toward Japan as a host country of international tourism. This task is carried out through questionnaires answered by international (and Japanese) students who participated in a study tour conducted in 2016. The above questionnaires were conducted at beginning and end of a study tour in which the participating students visit World Heritage candidate sites, as well as being exposed to local community culture, in Nagasaki prefecture. Background of this study will be shown in Chapter I. Inter-governmental relations affects possibilities of international tourism, as well as tourists' impression of destination country. As a preparation to consider answers to the above questionnaire, current status of inter-governmental relations, between countries where international students come from on one hand, and Japan on the other, are reported in Chapter II. Results of the questionnaires answered by the international (as well as the Japanese) students will be reported in Chapters III and IV. International students' impression of Japan as a host country of tourism has changed in positive direction after the above-mentioned study tour.

Key words

International Tourism, Regional Identity, World Heritage, Experience-based Tourism, Local Community Culture

要 約

当研究は、長崎県の歴史と地域社会の文化を知る観光が、日本以外の国からの観光者の対日本イメージに影響するかを検討する。Ⅰでは、当研究の背景を示す。Ⅱでは、観光者である本学科の留学生の出身国と日本の政府間関係の現状を確認する。ⅢとⅣでは、上記留学生たちを主たる対象として行ったアンケート調査の結果を報告する。長崎県内での体験観光を含む研修旅行の終了後、留学生たちの日本に対する印象に、プラス方向の変化が見られた。

キーワード

国際観光、地域アイデンティティ、世界遺産、体験観光、地域文化

I 当研究の背景

この研究のねらいは、長崎県の歴史と地域社会の文化を知る観光が、日本以外の国からの観光者の日本に対するイメージに、影響するかどうかを検討することである。

筆者は、これと同様の趣旨で2015年に行った研究の結果を、報告したことがある（滝 2016）。前回と今回の研究に共通する背景として、筆者は、国際政治学者の倉田（2006）が述べた「東アジア文化」概念に注目している。倉田は、こうした文化の創造に取り組むことを通じ、東アジアに存在する強固なナショナリズムを克服する糸口を見いだせるのではないかと、主張する。そのための具体的な方法として、サブ国家レベルの文化に注目し、それを東アジア地域の視点から俯瞰することが、考えられる。このような活動が、地域アイデンティティの創造に通じる可能性があるのではないかと。

筆者の問題意識は、前回の研究と共通である一方、研究をとり巻く背景には相違点があるので、ここで確認したい。

ア 日本の国際関係においては、日中関係と日韓関係に一定の改善が見られたこと。¹⁾

イ 日本の観光を取り巻く環境では、インバウンド観光客数の増加が続き、2016年10月に年間2,000万人を超えたこと。また中国人観光客の日本における「爆買い」が「越境電子商取引（越境 Electric Commerce, EC）」にとって代わられる一方、「コト観光」への関心が従来以上に高まっていること。

筆者は2016年に、本学の学生を対象として研修旅行を実施した（「国内観光研修D（九州）」）。その際、この研修旅行の参加者に対し、アンケート調査を行った。この調査への解答の分析を通じて、上述の検討を行う。

なお前回（2015年）と今回（2016年）の研修旅行の内容の異同は、次の通りである。

ア 研修を実施した場所

前は佐賀県、福岡県と長崎県であったのに対し、今回は、長崎県内の3か所（平戸市、佐世保市と南島原市）であった。

イ 観光対象とした文化

前は世界遺産（軍艦島）とポピュラー文化（忍者テーマパークとコミックマーケット）を対象とした。今回は、上記3か所に位置する世界遺産候補の構成資産と、各地の生活や食文化に関わる体験観光を対象とした。

II 日本と留学生の出身国との関係

筆者が以前述べた（滝 2016）とおり、国際交流は、ある2国間の国際関係の改善（ないし悪化の防止）に寄与することがあるかもしれない。そこで、アンケート調査の結果の報告に先立ち、この章では、留学生の出身国・地域とホスト側である日本との関係の現状を、確認する。その方法として今回は、日本の外務省の公式見解をまとめたものを示す。

今回の研修を受講した学生たちのうち、留学生の出身国・地域は、韓国、中国、フィリピン、ベトナム、香港である。以下では、韓国、中国、フィリピン、ベトナムと日本の関係について述べる。

(1) 二国間関係

カナダとの二国間関係は良好で、経済は相互補完的である。韓国との関係では、2015年に国交正常化50周年を迎えた。「重層的・未来志向的な協力関係」の構築を、日本政府は目指している。中国との間では、「日中関係の改善の流れが見られ、それまで長い間停滞していた各種対話・交流が再開された」（外交青書2016: p. 15）。日中関係は「戦略的互恵関係」と表現される。また両国間の経済関係は「緊密かつ相互依存的」である（外交青書2016: p. 29）。フィリピンと日本の間に大きな政治的懸案事項は存在せず、活

発な貿易、投資、経済協力関係を背景に、両国関係は極めて良好である。ベトナムとの関係は2010年以降、「アジアにおける平和と繁栄のための戦略的パートナーシップ」と表現される。

(2) 外相・首脳交流とその頻度

次に示すように、5か国のそれぞれとの間で、首脳交流が行われている。まずカナダについては、2016年2月に岸田外務大臣がカナダを訪問。一方カナダからは、同年4月にディオン外相、翌5月にトルドー首相が、それぞれ訪日した。韓国については、2015年に日韓外相会談が3回行われた（6月、11月、12月）。また同年11月に、日韓首脳会談が行われている。中国については、日中外相会談が、2015年に3回行われた（日中韓外相会談（3月）、ASEAN 関連外相会議（8月）、日中韓サミット（11月））。また安倍総理と習近平主席の首脳会談は同年4月に、安倍総理と李克強総理の会談は日中韓サミット（11月）の際に行われた。フィリピンについては、アキノ大統領が2015年6月に訪日。同年11月に安倍総理大臣、岸田外務大臣、林経済産業大臣が、フィリピンを訪問した。ベトナムにつ

いては、2016年5月に岸田外務大臣が同国を訪問した。

(3) 懸案事項

日本と中国の間には、尖閣諸島をめぐる関係が存在する。日本と韓国の間には、竹島、「慰安婦」問題、朝鮮半島出身の「旧民間人徴用工」をめぐる裁判などの懸案事項がある。「慰安婦」問題への対応をめぐり、日本政府と韓国政府は最終的合意に達した（2015年12月）。カナダ、フィリピンとベトナムの間では、特に大きな懸案はない。

(4) 貿易額

貿易額の多い順に並べると、中国（2,699億ドル）、韓国（9兆円）、フィリピン（2兆2,219億円）、カナダ（1兆9,880億円）、ベトナム（285.1億円）となる。

(5) 訪日観光客数（2015年）

人数の多い順に並べると、中国499万人、韓国400万人、フィリピン27万人、カナダ23万人、そしてベトナム19万人である。

表2-1 研修を受講した留学生たちの出身国と日本との関係

| | カナダ | 韓国 | 中国 | フィリピン | ベトナム |
|----------------|----------------------------------|-----------------------------------|--|-----------------------------------|---------------------------------|
| 二国間関係の特徴 | 良好な関係。相互補完的な経済。 | 国交正常化50周年（2015年） | 関係改善の流れ。各種対話・交流の再開。「戦略的互惠関係」「緊密かつ相互依存的」な経済関係 | 良好な関係。貿易、投資、経済協力が活発。 | 「アジアにおける平和と繁栄のための戦略的パートナーシップ」 |
| 懸案事項 | — | 「慰安婦」問題をめぐる両国政府の合意 | 尖閣諸島をめぐる関係 | — | — |
| 貿易 | 輸入 10,895 輸出 8,985 (2015年) | 輸入 35,000 輸出 55,000 (2014年) | 輸入 1,606 輸出 1,093 (2015年) | 輸入 10,738 輸出 11,481 (2015年) | 輸入 141.4 輸出 143.7 (2015年) |
| 訪日観光客数 (万人) | 23 | 400 | 499 | 27 | 19 |

（「輸入」は相手国から日本への輸入、「輸出」は日本から相手国への輸出。）
（金額：億円。ただし中国との貿易のみ、億ドル）

Ⅲ 地域社会の歴史と生活に触れる観光が、観光者に与える影響

1 調査の概要

(1) 観光研修の内容

「国内観光研修D（九州）」を、2016年9月12日～15日の4日間、長崎県平戸市、佐世保市と南島原市で実施した。研修中の主な活動内容は、①世界遺産候補の構成資産を訪れる、②体験観光（自然、ものづくり体験、農業・漁業体験）、そして③旅館または民宿に宿泊する、である。

表3-1 研修の観光対象の概要²⁾

| | 平戸市 | 佐世保市黒島 | 南島原市 |
|------------|------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 世界遺産候補 | 田平天主堂 ³⁾ 春日の棚田 | 黒島天主堂 | 日野江城跡 ³⁾ 島原城跡 |
| 自然 体験観光 | 大バエ灯台 塩俵の断崖 | ものづくり体験 (ふくれ饅頭、 黒島豆腐) | 農業・ 漁業体験 |
| 宿泊 | 旅館 | 民宿 | 民泊 |

2 調査結果

研修開始時（9月12日）にはアンケートA、研修終了時（9月12日）にはアンケートBに回答してもらった⁴⁾。今回の研修を受講した34人のうち、研究への協力に同意しないと判断された者が、3人いた。この結果、有効回答者数は31人である。アンケートの様式は、文末に示す。

以下(1)～(6)は留学生の回答を、また(7)～(12)は日本人学生の回答を、まとめたものである。

(1) 回答者の出身国・地域と出身地（省・市） （問1、2）

表3-2 回答者の出身国・地域と出身地

| 出身国・地域 | 人数（人） | 出身地 |
|--------|-------|-----|
| 香港 | 15 | |
| ベトナム | 6 | |

| | | |
|-------|---|-------------------|
| 中国 | 5 | 山東省 4人 黒竜江省 1人 |
| 韓国 | 1 | |
| フィリピン | 1 | マニラ |
| 日本 | 3 | |

表3-2が示すように、このアンケートの回答者の中には、都市部の出身が多い。

(2) 留学生の出身国全体での、日本に対するイメージ（問3）

表3-3 留学生の出身国全体での日本に対するイメージ（人）

| | 記入 なし | とても 悪い | やや 悪い | どちらで もない | まあ 良い | とても 良い |
|--------|----------|-----------|----------|-------------|----------|-----------|
| アンケートA | 3 | 0 | 6 | 2 | 11 | 9 |
| アンケートB | 3 | 0 | 4 | 2 | 14 | 8 |
| 増減 | 0 | 0 | -2 | 0 | 3 | -1 |

研修の前後で、「やや悪い」が2人減、「d. まあ良い」が3人増、「e. とても良い」が1人減であった。

なおこの質問への回答について、回答者個人の気持ちを「自分の出身国全体のイメージ」に投影している可能性を排除できないと考えられる。この点をどう取り扱うかは、今後の課題である。

(3) 回答した留学生自身の日本に対するイメージ（問4）

表3-4 留学生自身の日本に対するイメージ（人）

| | 記入 なし | とても 悪い | やや 悪い | どちらで もない | まあ 良い | とても 良い |
|--------|----------|-----------|----------|-------------|----------|-----------|
| アンケートA | 3 | 3 | 1 | 7 | 5 | 12 |
| アンケートB | 3 | 0 | 2 | 3 | 10 | 13 |
| 増減 | 0 | -3 | 1 | -4 | 5 | 1 |

研修の前後で、「とても悪い」が3人減、「やや悪い」が1人増、「どちらでもない」が4人減、「まあ良い」が5人増、そして「とても良い」が1人増であった。

この結果からは、研修開始前のマイナスイメージに、一定のプラス方向への変化が生じたように見える。なおこうした変化の個別の内容について未確認であり、今後の課題である。

(4) 日本と留学生の出身国の間の懸案（問5）

表3-5 留学生の出身国と日本の間の懸案（人）

| | 記入なし | 安全保障・軍事 | 貿易・経済 | 環境 | 歴史認識 | その他 |
|--------|------|---------|-------|----|------|-----|
| アンケートA | 3 | 4 | 8 | 9 | 7 | 0 |
| アンケートB | 4 | 4 | 9 | 7 | 6 | 1 |
| 増減 | 1 | 0 | 1 | -2 | -1 | 1 |

「安全保障・軍事」と答えた人数は変化なし、「貿易・経済」が1人増、「環境」が2人減、「歴史認識」が1人減、「その他」が1人増であった。なお「その他」（1人）の内容は、「領土主権問題」であった。

(5) 2国間の懸案と観光のどちらが重要か（問6）

表3-6 2国間の懸案と観光のどちらが重要か（人）

| | 記入なし | 懸案が最優先 | 懸案がやや優先 | どちらも重要 | 観光がやや優先 | 観光が最優先 |
|--------|------|--------|---------|--------|---------|--------|
| アンケートA | 3 | 2 | 11 | 10 | 2 | 3 |
| アンケートB | 3 | 1 | 6 | 14 | 6 | 1 |
| 増減 | 0 | -1 | -5 | 4 | 4 | -2 |

懸案を優先とする回答者が6人減、観光を最優先とする回答者が2人減であった。一方「どちらも重要」、「観光がやや優先」がそれぞれ4人増加した。

(6) 自国の文化と日本の文化の関係の、あるべき姿（問7）

表3-7 自国の文化と日本の文化の間にあるべき関係（人）

| | 記入なし | 自国文化が大切 | 日本の文化が大切 | 日本でも自国でもない | 双方のよいところ |
|--------|------|---------|----------|------------|----------|
| アンケートA | 3 | 4 | 4 | 6 | 14 |
| アンケートB | 3 | 0 | 2 | 6 | 20 |
| 増減 | 0 | -4 | -2 | 0 | 6 |

いずれか一方の文化を優先するとの回答が合わせて6人減り、双方のよいところに注目するとの回答が6人増加した。

(7) 留学生の出身国に対する日本全体のイメージ（問8）

当研修を受講した日本人学生は3名である。この3名は、カナダ、中国と韓国を、この質問に答える上での対象として選んだ。そのうえで、これらの国に対し、日本全体としてはどのようなイメージを持っていると考えているかを、尋ねた。

表3-8 留学生の出身国に対する日本全体のイメージ（人）

| | 記入なし | とても悪い | やや悪い | どちらでもない | まあ良い | とても良い |
|--------|------|-------|------|---------|------|-------|
| アンケートA | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 |
| アンケートB | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 |
| 増減 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

研修の前後で、特に変化は生じなかった。

(9) 回答した日本人学生自身の、留学生の出身国に対するイメージ（問9）

表 3-9 日本人学生自身の、留学生の出身国に対するイメージ（人）

| | 記入なし | とても悪い | やや悪い | どちらでもない | まあ良い | とても良い |
|--------|------|-------|------|---------|------|-------|
| アンケートA | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 |
| アンケートB | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 |
| 増減 | 0 | 0 | -1 | 0 | 1 | 0 |

研修の前後で、「やや悪い」が1人減り、「まあ良い」が1人増えた。

- (10) 相手国と日本の間の懸案で、学生が気になるもの（問10）

表 3-10 相手国と日本の間の懸案で、学生が気になるもの（人）

| | 記入なし | 安全保障・軍事 | 貿易・経済 | 環境 | 歴史認識 | その他 |
|--------|------|---------|-------|----|------|-----|
| アンケートA | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| アンケートB | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 |
| 増減 | 0 | -2 | 0 | 1 | 1 | 0 |

研修の前後で、「安全保障・軍事」が2人減り、「環境」と「歴史認識」が1人ずつ増えた。なお問10では、「竹島の問題が解決するのかどうか気になります」との回答が、1人からあった。

- (11) 2国間の懸案と観光のどちらが重要か（問11）

表 3-11 2国間の懸案と観光のどちらが重要か（人）

| | 記入なし | 懸案が最優先 | 懸案がやや優先 | どちらも重要 | 観光がやや優先 | 観光が最優先 |
|--------|------|--------|---------|--------|---------|--------|
| アンケートA | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 |
| アンケートB | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 |
| 増減 | 0 | 0 | -1 | 1 | 0 | 0 |

研修の前後で、「懸案がやや優先」が1人減り、「どちらも同じくらい重要」が1人増えた。

- (12) 日本の文化と留学生の国の文化の関係の、あるべき姿（問12）

表 3-12 日本の文化と留学生の国の文化の関係の、あるべき姿（人）

| | 記入なし | 自国文化が大切 | 日本の文化が大切 | 日本でも自国でもない | 双方のよいところ |
|--------|------|---------|----------|------------|----------|
| アンケートA | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| アンケートB | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 増減 | 0 | -1 | 0 | 0 | 1 |

研修の前後で、「自国文化最優先」が1人減り、「日本の文化と自国の文化の、それぞれのよいところに注目すべき」が1人増えた。

IV 日本（または留学生の出身国）に対するイメージの変化

ここでは、問13から問15への回答の結果を述べる。なおアンケートに回答した31人のうち、問13から問15が無回答であった者が、4人いた。このため、上記3つの質問への有効回答者数は、27人である。

- (1) 印象に残った場所（問13）

問13では、この研修を通じて印象に残った場所について尋ねた。その結果は次の通りである。

表 4-1 印象に残った場所（人）

| | 最も印象に残った | 2番目に | 3番目に | 複数回答 | 無回答 | 計 |
|------|----------|------|------|------|-----|----|
| 平戸 | 1 | 4 | 6 | | | 11 |
| 黒島 | 5 | 14 | 7 | | | 26 |
| 南島原 | 20 | 5 | 4 | | | 30 |
| 小浜温泉 | 1 | 4 | 6 | | | 10 |
| 複数回答 | | | | 2 | | 2 |
| 無回答 | | | | | 2 | 2 |

それぞれの場所が印象に残る理由として、次のことが述べられている。回答者数の多い場所の順に示す。

ア 南島原

夕食作り（ピザ、すし、ジャム、うどん、郷土料理、あんず酒、一般的な日本人の日常生活を体験、自分の労働からいろんな経験など得られる、魚釣り、焼肉）、原城跡

イ 黒島

黒島天主堂、フェリー、ふくれまんじゅう作り体験、黒島豆腐作り体験

ウ 平戸

島の館（カクレキリシタンの歴史、鯨の骨格）、大バエ灯台、田平天主堂

エ 小浜温泉

足湯体験

(2) 留学生の日本に対するイメージの変化（問14）

問14では、留学生の日本に対するイメージ（日本人学生の場合は、自分が選んだ国（研修パートナーの出身国）に対するイメージ）が、研修開始前と研修終了後を比べ、変化したかを尋ねた。その結果は次の通り。

ア 変化した18人、変化しなかった9人、無記入4人（日本人学生を含む）。

表4-2 留学生の日本に対するイメージが、研修の前後で変化したか（問14(1)）

| 変化した | 変化しなかった | 無記入 |
|------|---------|-----|
| 18 | 9 | 4 |

（上記には日本人学生の回答を含む）

イ 変化の方向については、プラスの変化が16人、マイナスの変化1人、無記入が14人であった。

表4-3 イメージの変化は、プラスかマイナスか（問14(2)）

| プラスの変化 | マイナスの変化 | 無記入 |
|--------|---------|-----|
| 16 | 1 | 14 |

（上記には日本人学生の回答を含む）

(3) 変化した理由（問14(3)）

この問いへの答えは自由記述式であり、次のような回答があった。

ア 互いに話す機会がなかったのですが、一緒に話してみて、自分たちと変わらない（考え方）だなと感じ、親近感があったからです。

イ 外国の都会の出身者が、農村部の社会の特徴を、日本で知った（著者加筆）。

ウ 自分がまだ知らなかった情報や経験をjして、日本の歴史についてもっと勉強したいと思いました（著者加筆）

エ 民泊の大家さんはとてもやさしいです。学修のとき、日本の環境もきれいです。

オ みんな思いやりのある人たちだなと思った

カ 「あるスポットは遠すぎて、大変でした」（マイナスの変化）

(4) 変化しなかった理由（問14(4)）

印象が変化しなかった理由については、研修受講前から、日本に対して好印象を持っていたとの回答者が6名あった。特に記入がなかったものは3名であった。

表4-4 印象が変化しなかった理由

| 元々好印象 | 記入なし |
|-------|------|
| 6 | 3 |

「元々の好印象」の理由については、次のように述べられている。

ア 日本人の生活はどこでも便利です。

イ 日本には以前からの文化が維持されてい

るから（解答原文は英語）

- ウ イメージの通り景色が綺麗でした
- エ 元々良い印象を持っているので。
- オ 想像と同じ、日本はいい国ですから
- カ 日本人に対する印象はいつもいいです

(5) 今回の研修で学んだこと、感じたこと
（問15自由記述）

今回の研修で学んだこと、感じたことについて、自由記述で回答してもらった。この質問への回答は21人が記入した。そのうち、ゲストとホストの関わりについて具体的に述べたものとして、次がある。

- ア 今までの研修でまだ自分が知らない歴史や日本での生活、それと各地域の風習を知り、まだいったことがないほかの地域も、休みのとき旅行研修してみたいと思いました（筆者加筆）
- イ 学修旅行の時、会ったの人々はとてもやさしかったです。みんなと一緒に旅行に行くは楽しかったです（ママ）。
- ウ 最初は周りのほとんどが留学生で驚いたが、すぐに打ち解けることが出来た。また、民泊を始め、豆腐作りや黒島へ訪れるなど初めての経験ばかりで学べた。
- エ 私は最初は留学生が多い事に心配していたが、日本語を話せる留学生がいたので楽しかったのである。留学生とコミュニケーションを取ることで仲が良くなるのである。
- オ 長崎県は原爆の歴史だけでなく、キリスト教の歴史も素晴らし（ママ）と思った。
- カ 日本人って、やっぱりやさしいです
- キ 日本の田舎の景色と人の親しさはいちばん印象に残った

なおウとエの記述は、日本人学生たちのものである。

(6) まとめと考察

以上の結果をまとめると、次のようになる。

- a. 2016年9月、長崎県内の世界遺産候補の構成資産を訪れるとともに、体験観光を行う研修旅行を実施した。受講した34人のうち、研究への協力に同意した31人の回答を集計した。
- b. 受講した留学生たちの回答には、この観光（研修旅行）の前後で、ホスト国である日本に対するイメージに関して、好意的なイメージへの変化（プラス方向への変化）が一定の程度みられた。政府間の懸案の解決と国際観光の優先度については、観光を優先すべきとの回答が、増加した。回答者の出身国の文化と日本の文化との関係については、双方のよいところに注目すべきとの回答が、増加した。
- c. 受講した日本人学生たちの回答には、この観光（研修旅行）の前後で、留学生の出身国に対するイメージに、一定のプラス方向への変化が見られた。政府間の懸案の解決と国際観光の優先度については、観光を優先すべきとの回答が、増加した。日本の文化と回答者の出身国の文化との関係については、双方のよいところに注目すべきとの回答が、増加した。
- d. 上述したプラス方向の変化の理由として、体験観光の果たす役割が強い。今回の研修旅行での体験観光の特徴として、少なくとも2つがあげられる。まず、観光活動の内容である。日本の農村部の社会で、従来とは異なる観光活動（まんじゅうづくり、豆腐づくり、簡単な農作業、釣り、食事づくり）を行った。次に、ゲストとホストの関係のあり方である。非体験型の観光との違いは、ゲストとホストがやりとりをする時間が長いこと、また両者の立場の区別の違いの程度が（完全になくなるわけではないが）、他の形態の場合よりも小さいことで

ある。

都市部での観光に比べ、交易的な活動には明らかに制約がある。それにも関わらず体験観光の満足度が高かったことと、ホスト社会のメンバーに対して好印象を持ったことは、筆者として予想外の結果である。

当研究の調査対象とした研修旅行の結果、受講した留学生たちと日本人学生たちの間に、地域アイデンティティが構成されたとはまでは言えない。しかし彼女ら・彼らが、今後地域アイデ

ンティティを持つようになるための種がまかれた、と言えるのではないかと感じる。

なおこの報告では、研修の前後での回答の変化の理由の詳細の検討が未了である。また今後の課題として、留学生がもともと持っていた好悪感情の出どころと理由の考察も、必要である。このような好悪感情に関する調査として、留学生の出身国の人たちの対日印象に関する世論調査結果の活用や、留学生が出国前に持っていた日本に対する印象の調査などが、考えられる。これらの点への取り組みは、今後の課題である。

平成28年度 国内観光研修D（九州）行程

I. テーマ

長崎県北と県南の世界遺産候補を訪れる

II. 目標

1. 平戸市、佐世保市と南島原市に位置する「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」⁵⁾の特徴と魅力に触れる。
2. 各地で体験観光を行い、地元の人たちとの交流を深める。
3. これらの活動を通じ、観光が地域社会にもたらす影響と、観光者に与える影響を考察する。
4. さらに、この研修で調査した長崎県の観光地の魅力を把握し、2か国語で発信することを通じ、アジア観光文化の創造に務める。

III. 行程

| 日 | 月日 | 活 動 |
|---|-------------|---|
| 1 | 9/12 (月) | 8:30 大学発 9:30 田平天主堂 10:45 平戸港交流広場着 11:00 オランダ商館 12:00～14:00 平戸中心部 調査（昼食、スイーツ、足湯）（平戸城、松浦史料博物館） 14:30 春日の棚田 15:30 島の館 16:30 塩俵の断崖、大バエ灯台 17:30 旅館着 |
| 2 | 9/13 (火) | 7:30 旅館発 9:30 相浦港着 10:00 相浦港発 10:50 黒島港着 11:00～18:00 黒島内の観光対象の調査 興禪寺、蔵地区の文化的景観、蔵展望台 昼食（島めし） カトリック共同墓地、黒島天主堂、ものづくり体験 黒島泊 |

| | | |
|---|-------------|--|
| 3 | 9/14 (水) | 午前中 アコウ、サザンカ 11:10 黒島港発 12:00 相浦港着 12:00 相浦港発 車内で昼食 15:00 南島原着 民泊、農業体験 南島原泊 |
| 4 | 9/15 (木) | 9:00 日野江城跡 9:30 原城跡 10:30 原城跡発 11:30 小浜温泉着 昼食、ほっとふっと 13:30 小浜温泉発 16:30 大学帰着、解散 |

アンケート調査票

「〈訪日〉観光がゲストの対ホスト国イメージに与える影響―〈九州の大学生の観光の事例をめぐって〉」

アンケートA 研修開始時用（2016年9月12日）（解答欄省略）

〈次の問いには、全員が答えてください。〉

I あなたの出身国と出身地を教えてください。

- あなたの出身国（いずれか一つに○をつける、④の場合は記入する）留学生 ①中国、②韓国、③ベトナム、④ ①～③以外の国、日本人学生 ⑤日本
- あなたの出身地 ①省（中国）、②道・市（韓国）、③市（ベトナム）、④市（①～③以外の国）、⑤県（日本）

〈「1. あなたの出身国」で①～④と答えた人は、次のⅡに進んでください。⑤と答えた人は、Ⅲに進んでください。〉

Ⅱ 次の3～7には、留学生が答えてください。

- あなたの国全体で、日本に対するイメージはどうだと思いますか？あなたが選んだ選択肢の番号を、右の欄に記入してください。
a. とても悪い、b. やや悪い、c. どちらでもない、d. まあ良い、e. とても良い
- あなた自身の日本に対するイメージは、次のどれですか？あなたが選んだ選択肢の番号を、右の欄に記入してください。
a. とても悪い、b. やや悪い、c. どちらでもない、d. まあ良い、e. とても良い
- 日本とあなたの国の間の懸案で、あなたが最も気になるのは、次のどの分野のものですか？あなたが選んだ選択肢の番号を、右の欄に記入してください。
a. 安全保障・軍事、b. 貿易・経済、c. 環境、d. 歴史認識、e. その他（具体的に）

なお e を選んだ場合、具体的にどのようなことかを、下の欄に簡潔に記入してください。

6. あなたにとって、上記 5 で選んだ懸案と観光を比べると、どちらが重要ですか？次の選択肢から選んだものの記号を、右の欄に記入してください。
- a. 懸案の解決が最優先である
 - b. 懸案の解決の方を、観光よりもやや優先すべきである
 - c. どちらも同じくらい重要である
 - d. 観光の方を、懸案の解決よりもやや優先すべきである
 - e. 観光が最優先である
7. あなたは、自国の文化と日本の文化との間に、どのような関係があるのがよいと思いますか？次の選択肢から選んだものの記号を、右の欄に記入してください。
- a. 自国の文化が最も大切であり、日本の文化を受け入れるべきでない。
 - b. 日本の文化が最も大切であり、自国の文化を受け入れるべきでない。
 - c. 日本の文化でも自国の文化でもない、世界的な文化を持つことを目指すべきである。
 - d. 日本の文化と自国の文化の、双方のよいところに注目すべきである。

留学生対象のアンケート A の質問は、以上です。ご協力、どうもありがとうございます。

Ⅲ 次の 8～12 には、日本人学生が答えてください。

8. カナダ、中国、韓国、フィリピンとベトナムの中から、一つの国を選んでください。日本全体として、その国に対するイメージはどうだと思いますか？あなたが選んだ国の名前と選択肢の番号を、右の欄に記入してください。
- a. とても悪い、b. やや悪い、c. どちらでもない、d. まあ良い、e. とても良い
9. あなた自身のその国に対するイメージは、次のどれですか？あなたが選んだ選択肢の番号を、右の欄に記入してください。
- a. とても悪い、b. やや悪い、c. どちらでもない、d. まあ良い、e. とても良い
10. その国と日本の国の間の懸案で、あなたが最も気になるのは、次のどの分野のものですか？あなたが選んだ選択肢の番号を、右の欄に記入してください。
- a. 安全保障・軍事、b. 貿易・経済、c. 環境、d. 歴史認識、e. その他（具体的に）
- なお e を選んだ場合、具体的にどのようなことかを、下の欄に簡潔に記入してください。
11. あなたにとって、上記 5 で選んだ懸案と観光を比べると、どちらが重要ですか？次の選択肢から選んだものの記号を、右の欄に記入してください。
- a. 懸案の解決が最優先である
 - b. 懸案の解決の方を、観光よりもやや優先すべきである
 - c. どちらも同じくらい重要である
 - d. 観光の方を、懸案の解決よりもやや優先すべきである
 - e. 観光が最優先である
12. あなたは、日本の文化と 8 で選んだ国の文化との間に、どのような関係があるのがよいと思いますか？次の選択肢から選んだものの記号を、右の欄に記入してください。
- a. 自国の文化が最も大切であり、日本の文化を受け入れるべきでない。
 - b. 日本の文化が最も大切であり、自国の文化を受け入れるべきでない。
 - c. 日本の文化でも自国の文化でもない、世界的な文化を持つことを目指すべきである。

d. 日本の文化と自国の文化の、双方のよいところに注目すべきである。

日本人学生対象のアンケートAの質問は、以上です。ご協力、どうもありがとうございます。

アンケートB 研修終了時用（2016年9月15日）

（アンケートBに、質問1と質問2はありません。）

Ⅱ 次の3～7には、留学生が教えてください。

（質問と回答の選択肢は、アンケートAに同じ。）

この次は、Ⅳに進んでください。

Ⅲ 次の8～12には、日本人学生が教えてください。

（質問と回答の選択肢は、アンケートAに同じ。）

この次は、Ⅳに進んでください。

Ⅳ 次の13～15には、全員が教えてください。

13. この観光で印象に残る体験（最大3つまで）について、質問します。

(1) 最も印象に残る体験について

a. どこで、何をした体験ですか？

b. その体験があなたの印象に残る理由は、何ですか？

(2) 2番目に印象に残る体験について

a. どこで、何をした体験ですか？

b. その体験があなたの印象に残る理由は、何ですか？

(2) 3番目に印象に残る体験について

a. どこで、何をした体験ですか？

b. その体験があなたの印象に残る理由は、何ですか？

14. この観光を通じて、あなたの日本に対するイメージ（日本の学生は、9月24日のアンケートで選んだ国に対するイメージ）は変化しましたか？

(1) a. 変化した b. 変化しなかった （どちらか一方に○を付ける）

(2) 上記(1)でaを選んだ（「変化した」と答えた）場合、それはあなたにとってプラスの意味の変化ですか？それともマイナスの意味の変化ですか？

a. プラスの意味の変化 b. マイナスの意味の変化 （どちらか一方に○を付ける）

(3) 上記(1)でaを選んだ（「変化した」と答えた）場合、変化した理由は何ですか？

(4) 上記(1)でbを選んだ（「変化しなかった」と答えた）場合、変化しなかった理由は何ですか？

15. 今回の研修で（学んだこと、感じたこと）について書きたいことがあれば、下の欄に記入してください。

アンケートBの質問は、以上です。ご協力、どうもありがとうございます。

注

- 1) なお2016年には、英米における反グローバリズムの高まりが顕著になった（英国のEU離脱決定、米国の2016年大統領選挙）。このことが、日本を含む世界の国際関係にどう影響するか、また日本の観光にどう影響するかは、筆者にとって今後しばらくの間の課題である。
- 2) 2016年度に実施した観光研修のねらいと行程は、次の通りである。
- 3) 当研修の企画段階では世界遺産候補であったが、2016年6月になり、候補から外れた。
- 4) アンケート調査票は、次の通り。
- 5) 2016年9月、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連資産」と名称が変更された。

参考文献

- 外務省編（2016）外交青書2016年版，日経印刷。
- 外務省北東アジア課（2016）「最近の日韓関係」
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000033344.pdf>
外務省ウェブサイト，「国・地域」
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/index.html>
- 倉田徹（2006）東アジア文化の構築，早稲田大学 COE 現代アジア学の創生 ワーキングペーパー。
- 滝知則（2016）国際観光が観光者の対ホスト国イメージに与える影響——ポピュラー文化と地域文化に触れる観光を事例として——，長崎国際大学論叢 16：51-69。